

# 【家庭・小5・「生活を支えるお金と物」】①

## 育成を目指す資質・能力（本時(4/6時間目)のねらい）

【目標】買い物の仕組みや消費者の役割が分かり、生活を支える物や金銭の計画的な使い方について理解できるようにする。

【本時のねらい】味噌汁の実（ねぎ・油揚げ）を購入する場面で、商品の値段や分量・品質を視点に、目的に合った品物を選ぶことができる。

## ICT活用のポイント

【授業の視点】味噌汁の実を購入する場面において、それぞれの品物の産地や特徴をICT機器によって比較・整理することにより、実際の買い物に役立つ商品選びの視点が身につくであろう。

## 事例の概要

【つかむ】  
物や金銭の大切さについて理解する。

【追究する】  
・よりよい買い物の仕方を考えよう。  
①買う前に考えることは何だろう  
②買い物の仕組みって何だろう

【追究する】  
・買い物の仕方を工夫する。

・工夫して買い物をする計画を立て、買い物をする。

【まとめる】  
計画を振り返り、改善する。

### ☆実際の授業の様子

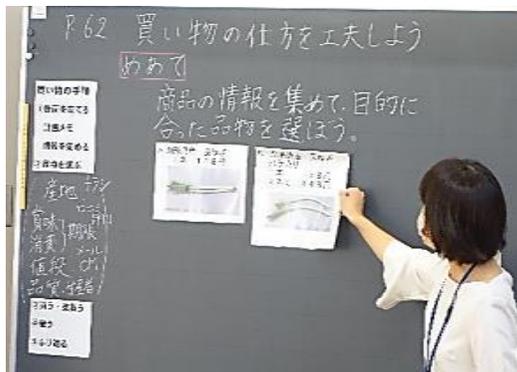
味噌汁の実（ねぎ・油揚げ）を購入する場面で、商品の産地や分量、価格、消費・賞味期限、包装を視点に目的に合った品物を選べるようにすることを授業のねらいとしました。

まず、買い物の視点について全体で確認したことで、本時のめあてを明確にすることができました。次に、学習支援ソフトの付箋を貼る機能を活用し、商品（担任が実際にスーパーで購入した数点のねぎや油揚げ）のラベルがよく見えるようなカードを作成しておき（グループ数用意）、そのカードに個人が見つけたことを付箋として貼り付け、グループで共有しました。一枚のカードに自由に付箋が貼れるため、タブレット端末の画面上でそれぞれの考えを見合うことができました。

その後、グループで出された内容（付箋）を大型提示装置で全体共有したことで、買い物の視点や各自の買い物に対する考えが理解でき、自分ならどういった視点で商品を購入するかをワークシートに記入する手立てとなりました。

# 【家庭・小5・「生活を支えるお金と物」】②

【事例におけるICT活用の場面①】



①商品を購入するときの視点を確認

【事例におけるICT活用の場面②】



②学習支援ソフトを使いグループで共有

【事例におけるICT活用の場面③】



③グループで出された内容を整理

## ◆良かった点

○冬休みの課題「お味噌汁を作ろう」として、家庭での調理実践場面を題材構想に位置付け、味噌汁の実際の買い物を想定した授業であり、児童は見通しをもち意欲的に取り組むことができた。実際にスーパーで買った商品の画像を用いたことも児童が身近に感じることができた要因であった。

○学習支援ソフトを活用したことで、児童が自由に付箋を貼り付け、効率よくグループの意見交流が図れていた。

○授業の導入で、黒板に5つの視点を明確にしておいたことで、商品購入の理由の焦点化が図れ、ワークシートの記入の際もねぎ4品、油揚げ4品の中から1品選び、その理由を書く活動にもつながっていた。

## ◆よりよい授業に向けて

○児童の購入経験の実態から、消しゴム、定規、ノート等のような、児童が実際によく買う物を題材にすると、児童にとって身近で生活に即した問題解決に結び付く。

○食べ物は、賞味・消費期限があり、授業準備と授業での活用するまでにタイムラグが生じ、活用しづらい。そこで、教師が、授業のねらいに即した情報に絞った内容の食品表示を作成し提示資料とすると、授業で押さえない内容がより焦点化できてよい。

【活用したソフトや機能】 大型提示装置（電子黒板） ICT端末 学習支援ソフト